

中学校における「カリキュラム・マネジメント」の実際 ～「3つの側面」からのアプローチ～

岡部 一宏

1 はじめに

学校は、学習指導要領等に基づき、かつ子供たちや地域の実態等を踏まえた上で、自らが設定した学校教育目標を実現するために、「教育課程」を編成する。「教育課程」とは、学校教育の目的や目標の達成を目指して、教育の内容を子供の心身の発達に応じ、授業時数との関連において総合的に組織した学校の教育計画である。昨今、この教育課程を、どのように編成し、どのように実施・評価し改善していくのかという「カリキュラム・マネジメント」の確立が強く求められている。

特に、教育課程全体を通じた取組を通じて「教科横断的な視点から教育活動の改善を行っていくこと」や、学校全体としての取組を通じて「教科等や学年を越えた組織運営の改善を行っていくこと」が求められており、学校が編成する教育課程を核にしつつ、どのように教育活動や組織運営等の学校の全体的な在り方を改善していくかが重要とされる。

「カリキュラム・マネジメント」については、これまで、教育課程の在り方を不断に見直すという取組が重視されてきたが、新しい学習指導要領の理念である「社会に開かれた教育課程」の実現を通じて子供たちに必要な資質・能力を育成するという考え方を加えれば、これからの「カリキュラム・マネジメント」は、次の3つの側面から捉えることができる。

- ア 教育内容の質の向上に向けて、子供たちの姿や地域の現状等に関する調査や各種データ等に基づいて教育課程を編成・実施・評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立すること。(これまで重視されてきた「カリキュラム・マネジメント」の取組)
- イ 各教科等の教育内容を相互の関係で捉え、学校の教育目標を踏まえた教科横断的な視点に立って、その目標の達成に必要な教育の内容を組織的に配列していくこと。
- ウ 教育内容と、教育活動に必要な人的・物的資源等を、地域等の外部の資源も含めて活用しながら効果的に組み合わせること。

以下、本論文では、上記の3つの側面から中学校における「カリキュラム・マネジメント」の実例を記すことにする。

2 PDCAサイクルの確立

教育活動は常に質の向上をめざして成長するものでなくてはならない。子供たちの実態に対してアンテナを高くし、目指すものを明確にしなが、日々工夫を加えて進歩する教育活動であってこそ、子供たち一人一人の成長を促すことができる。学校は自らの取組を自信を持って展開しつつも、「今のままでよいか。何か改善を加える必要はないか。」という思いをいつも持っているべきであろう。計画→実行→検証(評価)→改善という、いわゆる「PDCAサイクル」を確立することこそ、学校の成長を支える重要な柱となる。

(1) 4種類の学校評価

K中学校では4種類の学校評価を実施し、教育活動の検証を行っている。①教員自身による自

己評価、②生徒アンケートによる評価、③保護者アンケートによる評価、④学校関係者評価委員による評価がそれである。このうち教員自身による自己評価は年間2回、そのほかの評価は年間1回（年度末に）実施している。教育活動の検証（チェック）として、この学校評価は有益であり、評価結果を真摯に受け止めて改善につなげていくことが極めて大切である。K中学校で実施している4種類の学校評価の内容、様式の一部を紹介することにする。

<p>■ 教師自身による自己評価（後期）</p> <p>・評価は、自分自身に対して（個人内評価）と、自分の目で学校全体を見て（全体評価）の2観点で行う。</p> <p>・A：十分達成できた B：ほぼ達成できた C：やや不十分 D：不十分 の4段階で評価する。（一部、記述評価あり。）</p>			
<p>1 学校教育目標</p>			
項	目	個人内評価	全体評価
①心を磨く・自ら動く		A B C D	A B C D
<p>2 目指す生徒像</p>			
①真剣に学習に取り組む生徒		A B C D	A B C D
②正しい判断力を持ち実践する生徒		A B C D	A B C D
③健康で勤労に励む生徒		A B C D	A B C D
<p>: 以下、項目のみ紹介</p>			
<p>3 目指す学校像 「光あふれるふるさとの学校」</p> <p>①安全で安心できる温かな学校</p> <p>②力を精一杯発揮できる学校</p> <p>③保護者、地域に信頼される学校</p>			
<p>4 目指す教師像・生徒の成長を支援し、生徒の成長をともに喜ぶ教師</p> <p>①情熱と創造力のある教師</p> <p>②生徒を大切にする教師（生徒の近くにいる教師）</p> <p>③率先垂範する教師</p> <p>④心豊かで健康な教師</p>			
<p>5 学校経営方針</p> <p>①使命と責任を自覚し、組織で動く学校作り</p> <p>②授業の充実・向上とバランスのとれた教育活動の推進</p> <p>③厳しさと温かさが共存する指導の推進</p> <p>④清潔で美しい学習環境作り</p> <p>⑤学校・家庭・地域が協力して補完しあう関係作り</p>			
<p>6 学校経営の重点</p> <p>①教職員一人一人の長所を生かし、補いあいながら教育活動を進める。</p> <p>②教えることは教え、考えることは考えさせ、学ぶ喜び、わかる楽しさを味わわせる。</p> <p>③「時を守り 場を清め 礼を正す」等、当たり前のことが当たり前に行える指導を徹底する。</p>			

- ④学習に集中して取り組める学習環境作りを推進する。
- ⑤学校・家庭・地域の力を相互に生かした「共育」を推進する。

7 記述項目

※良かった点、互いにたたえ合う感謝の言葉、改善点（できれば改善策や打開策）等をお書きください。

※提出は教頭まで。締切：12月8日（金）

氏名

（記名して提出）

■ 生徒アンケートによる評価

・このアンケートは、K中学校をより良くするために生徒のみなさんからの意見を聞くものである。自分の考えで、真剣に答えること。

・学年、性別を○で囲みなさい。

1年 2年 3年 男 女

・評価記号については次のとおりとする。

1：そう思う 2：どちらともいえない 3：そう思わない

以下、質問項目を記す。

- ① 明るく活気に満ちた生活をしていますか。
- ② いじめや暴力がなく、安全で安心できる温かい学校だと思いますか。
- ③ 校舎・教室・校庭等が整備され、美しくさわやかな学校だと思いますか。
- ④ あいさつや服装、善悪の判断などの規律を身につけ、より良い行動を実践していると思いますか。
- ⑤ 自他の生命を大切にし、人権を尊重していると思いますか。
- ⑥ 清掃活動や奉仕活動など率先して行い、勤労を尊んでいると思いますか。
- ⑦ 授業は、学ぶことの楽しさや喜びを味わうことのできる「わかりやすい授業」だと思いますか。
- ⑧ 学校は、生徒の能力や適性、努力を評価し、生徒の「良さ」を伸ばしていると思いますか。
- ⑨ 先生は、生徒をよく理解して、相談にのったり指導してくれていると思いますか。
- ⑩ 学校行事（体育祭、合唱祭、校外学習等）は適切に行われ、生徒の成長に役立っていると思いますか。
- ⑪ 部活動は、生徒の成長に役立っていると思いますか。
- ⑫ 学校のプリント類を家の人に渡したり、学校の様子を話したりしていますか。
- ⑬ 学校は、生徒の家庭学習に協力的ですか。

1や3と答えた理由を、具体的に記入する欄あり。

■ 保護者アンケートによる評価

・このアンケートは、K中学校をより良くするために保護者の皆様からご意見を頂くものです。お手数ですが、12月8日（金）までに、一緒にお渡しした封筒に入れ担任にお出しください。

・評価記号については次のとおりとします。

1：そう思う 2：どちらともいえない 3：そう思わない

以下、質問項目を記す。

- ① 明るく活気に満ちた学校である。
- ② いじめや暴力がなく、安全で安心できる温かな学校である。
- ③ 校舎・教室・校庭等が整備され、美しくさわやかな学校である。
(学校公開日や行事でいらした際に学校環境はいかがですか?)
- ④ 学校は、あいさつや服装、善悪の判断などの規律を身につけ、より良い行動を実践する生徒を育成している。
- ⑤ 学校は生命を大切に作る心や、人権を尊重する心を育てている。
- ⑥ 学校は清掃活動や奉仕活動など率先して行い、健康で勤労を尊ぶ生徒を育成している。
- ⑦ 学校は学ぶことの楽しさや喜びを味わうことのできる「わかりやすい授業」を実践している。(学校公開や授業参観で授業をご覧になったご感想はいかがですか?)
- ⑧ 学校は生徒の能力や努力を適切に評価して、生徒の「良さ」を伸ばしている。
- ⑨ 学校は子どもをよく理解して、相談に乗ったり指導したりしている。
- ⑩ 学校行事(体育祭、合唱祭、校外学習等)は適切に行われ、生徒の成長に役立っている。
- ⑪ 部活動は、生徒達の成長に役立っている。
- ⑫ 学校公開や授業参観など保護者と話し合う機会を多く設けている。
- ⑬ 学校は、生徒の家庭学習に協力的である。

自由記述欄あり。

■ 学校関係者評価委員会による評価

・評価は、A(十分達成できた)、B(おおむね達成した)、C(不十分な点がある)、D(不十分である)の4段階で記入。

・領域、評価項目は次の通り。

教育目標に関する評価項目

学校教育目標(「心を磨く 自ら動く」)に向けて、生徒が向上している。(正しい判断力を持ち実践する/健康で勤労に励む等)

学校運営に関する評価項目

- ① 学校は、組織的・計画的に教育活動に取り組んでいる。
- ② 学校は、清潔であり、よく整頓され、掲示の工夫や環境美化にも取り組んでいる。

教育指導に関する評価項目

知育(学力)

- ① 教員は、学力が定着するよう授業を工夫している。
- ② 生徒は、家庭でも学習している。

徳育(規律)

- ① 生徒は、時刻を守ったり、整理整頓したりしている。

- ② 生徒は、進んであいさつや返事をしている。

体育(体力)

- ① 生徒の体力が向上している。
 ② 生徒は、外遊び、運動、スポーツに取り組んでいる。

家庭・地域との連携に関する評価項目

- ① 学校は、地域の特色を生かした教育活動に取り組んでいる。
 ② 保護者や地域の人々は、学校の教育活動に協力している。

(2) 各種テストデータの活用

学習活動の成果は、児童生徒のテスト結果に表れる。毎年4月に全国の小中学校で実施される「全国学力・学習状況調査」と、S県で実施される「S県学力・学習状況調査」の結果は、教育課程を編成する際におおいに活用したいデータである。特に「S県学力・学習状況調査」は、児童生徒の学力の伸びが細かく分析できるテストであり、S県教育委員会では、学力の伸びがめざましい子供や学級集団に着目し、その子供や集団がどのような指導を受けてきたかを分析することで、教育課程編成のヒントにする取り組みが始められている。

S県の分析によれば、学力の伸びが大きい子供や集団には、次のような特徴が認められると言う。

- アクティブラーニングという学びの形態は学力を伸ばすために有効である。ただし、アクティブラーニングは目的ではなく手段であることを間違えないようにする必要がある。
- 授業のみに目を向けるのではなく、特別活動や部活動等における学びも大切にすることが学力の伸びにつながる。
- 子供たちの人間関係が良好であることや、子供と教員の距離感が良いことも重要である。これはアクティブラーニングの前提とすることができる。この意味で、学級経営の工夫が学力の伸びにつながることも明らかになっている。

さらに、児童生徒の「非認知能力」を高めることが学力の伸びにつながることに注目が集まっている。IQや学力テストで計測される力のことを「認知能力」と呼ぶのに対して、テスト等で測れない力のことを「非認知能力」と呼ぶが、「非認知能力」は「認知能力(=いわゆる学力)」の形成に一役買っていることが明らかになっている。「非認知能力」は、具体的には「忍耐力がある」「社会性がある」「意欲的である」…といったような、人間の気質や性格的な特徴のようなものを指す…と考えればよさそうで、これらを伸ばすような教育活動を取り入れることに積極的に取り組んでいきたいものである。

(3) 教育活動ごとの2種類の評価

学校では様々な教育活動が展開されるが、そのつど振り返りを行うという姿勢が大切で、そうすることがより良い教育課程編成につながると考える。例えばK中学校では(多くの学校で行っていることだと思うが)、行事が終わるごとに次の2種類の評価の機会を設けている。

① 教職員による行事評価

ひとつの行事が終わると担当教諭から「反省用紙」なるものが全教職員に配布される。教職員は、行事全体を見渡して、あるいは自分が担当した役割について、感じたことや次回に活かしたいことを記して提出する。担当教諭はそれをまとめて全教職員に配布し、ま

た時には職員会議の話題にして行事のまとめをする。さらに次回（翌年）同じ行事を行う際には、この反省のまとめを参考にして企画を行うので、行事は1回1回進化を遂げていくことになる。

② 生徒による行事評価

行事終了後、生徒にも用紙が配られる。これは「反省用紙」ではなく「感想用紙」であることが多い。行事によっては、「がんばっていた友達にひとことを贈ろう！」というカードであったりすることもある。生徒たちはお互いの頑張りを讃え、認め合い、そこには良好な人間関係が生まれる。このカードは時には廊下に掲示されて、多くの生徒の（もちろん教員も、時には保護者や地域の人々の）目に触れることもある。ひとつひとつの行事を通して生徒たちが一步一步成長していく姿がそこにあり、今後も大切にしていきたい取組であると考えている。

（4）評価を改善に活かす取組

以下の資料は、（1）に記したK中学校の平成29年度の学校評価について、実施の手順等をまとめたものである。集約された評価は、教職員等による協議を繰り返すことによって、課題を焦点化し、その解決のための方策をしっかりと立てた上で新年度を迎える。その過程の途中には「学校関係者評価委員」による会議も実施され、ここで出た意見も当然次年度に向けての方策決定に活かされる。学校（教職員）はとにかく子供たちと自分自身の周囲にのみ目を向ける傾向があるが、このような外部からの声に真摯に向かい合う姿勢を忘れてはならないと考える。

平成29年度K中学校学校評価について

1 目的

- （1）本年度の教育活動を検証し総括する。
- （2）学校評価での総括をもとに課題を明確にする。課題の解決に向けて、各部会で改善策を検討し次年度に生かす。
- （3）保護者・学校関係者評価委員（学校評議員）の外部評価をもとに、学校運営・指導の改善を図る。
- （4）市教委への学校評価の報告と保護者への公表を図り、説明責任を果たす。

2 手順

- ア 提案：10月23日（月）職員会議
- イ 生徒・保護者へのアンケート：12月1日（金）配布
12月8日（金）回収
- ウ 締め切り：12月15日（金）職員の学校評価（後期）
- エ 評価結果に基づく部会ごとの検討会：1月15日（月）校内研修
- オ 1月15日のまとめの配布：1月22日（月）職員会議
- カ 全体検討会：2月5日（月）校内研修
- キ 平成30年度の重点課題の絞り込み：2月22日（月）職員会議
- ク 学校関係者評価委員会での検討：3月上旬
- ケ 学校評価のまとめの市教委への報告と保護者への公表：3月下旬
- コ 次年度教育計画の詳細立案（準備委員会）：3月末

3 教科横断的な視点

(1) 教育活動の多面的な目標設定

学校における教育活動にはひとつひとつに目標がある。それが教科の学習であっても、道徳、特別活動、総合的な学習の時間等の学習活動であっても、その学習の、あるいはその時間の目標を明確にすることが、児童生徒の成長を正しく評価し、次の手立てを考えることにつながる。

そしてその目標を、教科や領域を越えて設定する姿勢を持つことが重要である。例えば数学のある単元の学習活動が、どのような目標に向けて行われるべきであるか、別の言い方をすればその学習をすることによってどのような力が身につくかを考えるとき、そこに教科横断的な視点を加味して考える習慣づくりが必要ではないだろうか。

学習指導案を作成する際、「単元の目標」や「本時の目標」の欄に、当該教科に関する目標のみに関わらず、他教科・領域の視点から考えての目標を書き添える。そしてそれを念頭に置いて授業を展開することで、児童生徒に身につけさせたい力がどのようなものであるかを具体的にイメージすることができる。と考える。

これは学校行事等についても同様である。体育祭を例に挙げれば、当然、保健体育や特別活動の視点から考えるこの行事の目標が第一に掲げられるところであろう。ここでさらに、体育祭における国語科の視点からの目標は？数学科の視点では？…と考えると、そこには確かにそれぞれの目標が存在する。これらを計画段階で明確にし、共通意識を持って行事に取り組んでいくことで、全ての教育活動を、教科・領域を越えて多面的な視点でとらえることができるのである。そしてこれは「児童生徒に生きる力を育む」ことを目指すとき、実は至極当然の視点であるように思える。

(2) 道徳教育における「別葉」の作成

K中学校では、ここ数年道徳の教科化に向けて道徳教育の研究に取り組んでいる。ここに記すまでもなく、道徳教育は道徳の時間（授業）のみで行うものではなく、すべての教育活動の中で行うものである。そこで、指導計画を立てる際に、道徳の指導内容項目と他の領域との関連を考慮した「クロス・カリキュラム」と呼ばれる年間計画の作成に以前から取り組んできた。

そして、さらにこのたびの道徳の教科化において、道徳教育全体計画の中に、道徳の指導内容項目と各教科の学習との関連を示した「別葉」を作成することとした。道徳教育以外についても、この「別葉」の考え方をを用いて指導計画を作成して教育活動を展開することで、教科横断的な教育活動の編成が可能になると考える。道徳における取組が、教科横断的な教育課程編成のヒントになるとしたら、幸いなことである。

本論の最後に、道徳の「クロス・カリキュラムによる年間計画」と「道徳教育全体計画（別葉）」の一例を示す。紙面の都合上、部分的な紹介になることをお許しいただきたい。

4 チーム学校という視点

(1) 小・中・高・大の連携

K中学校は、教育環境に恵まれた場所に立地している。近隣には、緑と清流にあふれ、最高のロケーションであるばかりでなく、徒歩10分圏内に2つの小学校、県立高等学校、私立大学がある。特にHM高等学校はすぐ隣にあり、またS大学には教職を目指す学生も数多くいる。これらの教育機関が、より深く連携して教育活動を行うことが、教育活動をより彩りのあるものにす

るために重要な観点であると考え。以下、K中学校がそれぞれの教育機関とどのように連携を図っているかを紹介する。

① 小学校との連携

「小中連携から小中一貫教育へ」というキーワードがいろいろな場面でささやかれる昨今である。K中学校と近隣の小学校との関係は、まだ「一貫教育」と呼べるものではないが、それでも様々な機会に連携を図って教育活動を行っている。共通スローガンを掲げて、教職員の連絡調整会議、合同研究会、授業公開、出前授業等を計画的に実施し、「K地区の子供たちを9年間かけて育む」という姿勢を大切にしている。教育課程の編成には直接関係ないかもしれないが、まず、それぞれの教職員がお互いに全員の顔と名前を覚えることが小中連携・一貫教育の第一歩であると、私は信じている。

② 高等学校との連携

隣接するS県立HM高等学校との連携は、濃密なものとなっている。1週間ずつお互いの学習活動のようすを公開し自由に参観しあえる期間を設ける、中学3年生が高等学校を訪問して高校の授業や部活動を体験する、高等学校の教員がK中学校を訪れて中学3年生を対象に授業を行うなど、さまざまな実践を行っている。現在、HM高等学校とK中学校は、いずれも素直でさわやかな生徒が多く健全な学校生活を送っているが、両校ともかつては生徒指導に頭を抱えた時期もあった。この点も踏まえ、より良い連携をすることでお互いに高めあう思いを大切に教育活動にあたっている。

③ 大学との連携

近隣に教職課程を持つ大学があることは、K中学校にとって大きな財産である。S大学から毎年教育実習生を迎えるというシステムは以前から構築されていたが、ここ数年はそれに加えて、教職を目指す多くの学生を学校ボランティアとして受け入れることに積極的に取り組んでいる。昨年度のK中学校の体育祭前日には、雨が続いて水たまりだらけになった校庭を、大学生が裸足になり泥だらけになって整備してくれたという一幕があった。K中学校生徒および教職員の感謝の思いは、ここに記すまでもない。また、前述のK中学校の道徳教育に関わる研究推進にあたっては、授業研究会に大学生が加わって中学校教員と協議をする等、お互いを高めあう実践が行われた。

(2) 地域・他機関との連携

「はじめに学校があって、そこに地域ができたのではない。はじめに地域があって、後にそこに学校ができたのだ。」学校に勤める者として常に心においておきたい言葉である。教職員は地域に対して謙る姿勢を持ち続けなくてはならない。地域の人々や地域の機関とより深く連携することは、児童生徒を育むうえでより良い教育活動の実践につながり、言わば教育課程編成のひとつの大きなカギである。

K中学校では、地域の人々（保護者、自治会長、民生児童委員、諸団体の人々等）に広く学校を公開することに努めるとともに、公民館活動等地域の諸行事には積極的に取り組むことを大切にしている。「公民館の文化祭に生徒の作品を展示する」という取組をひとつ例にとっても、そこに向けての計画が必要になり、これを教育課程に組み込むことになる。しかし、この実践をすることによる成果は絶大で、子供たちが地域の力によって育まれる姿を目の当たりにすることができる。「子供はより多くの目で見つめ、より多くの手で育むべきである。」これもまた、

私が大切にしている思いである。

5 終わりに

児童生徒が成長する姿をその近くにおいて数多く見ることができるのは、学校教職員の醍醐味である。わからなかったことがわかったり、できなかったことができるようになったりしたときに子供たちが見せてくれる最高の笑顔やガッツポーズは、他の何にも代えがたい成長の証である。そのような場面により多く出会うために、学校教職員はつねにより良い教育活動をつくり出す努力をし続けなければならない。

教育課程を編成する、カリキュラムをマネジメントするというと、なんだか難しいことのように感じるが、児童生徒に生きる力を身につけ、子供たちに未来を託すための取組と考えれば、学校教職員として当然の役割であろう。

本論文で取り上げた、PDCAサイクルの確立、教科横断的な視点、チーム学校という視点の3点を大切にしつつ、今後も多くの学校で、子供たちの成長に直接結びつく教育課程編成、カリキュラム・マネジメントが実践されることを願ってやまない。なお、K中学校の実践はあくまでもひとつの実例であって、今後まだまだ改善の余地が残されていることを書き添えておく。

〈参考文献・資料〉

- ・ 中学校学習指導要領 文部科学省
- ・ 教育課程企画特別部会資料（論点整理） 文部科学省
- ・ 埼玉県中学校教育課程編成資料 埼玉県教育委員会
- ・ 埼玉県中学校教育課程指導資料 埼玉県教育委員会
- ・ 埼玉県中学校教育課程評価資料 埼玉県教育委員会
- ・ 埼玉県中学校教育課程指導実践事例集 埼玉県教育委員会
- ・ 対談 なぜカリキュラム・マネジメントが必要なのか 教職課程 (2015.6)
- ・ 新しい時代に求められる資質能力を育成するカリキュラム・マネジメント 新潟県教育センター

K中学校 道徳科 他の領域との相互連携による年間指導計画表
(クロス・カリキュラムによる年間計画)

	4月			5月				6月				7月	
	3時間			4時間				4時間				2時間	
道徳 内容 項目	節度・節制	希望・勇気・克己・意志	礼儀	学校生活・集団生活	よりよく生きる喜び	友情・信頼	真理の探究・創造	生命の尊さ	自然愛護	向上心・個性の伸長	公正・公平・社会正義	家族愛・家庭生活	国際理解・国際貢献
	A 2	A 4	B 7	C 15	D 22	B 8	A 5	D 19	D 20	A 3	C 11	C 14	C 18
学校 行事	入学式・始業式			ツデーマーチ 生徒総会 中間テスト 宿泊学習 1年校外学習				学校公開日 〈道徳公開授業実施〉 学総大会 修学旅行				期末テスト 終業式 家庭訪問	
特別 活動	中学校生活の確立 学級組織固め 生徒総会議案審議 修学旅行を成功させよう(3年)			生徒総会を成功させよう 宿泊学習を成功させる(2年) 楽しい校外学習にしよう(1年)				学校生活の見直し 学校総合大会壮行会				1学期の反省と夏季休業に備えて 上級学校の見学に備えて(3年)	
生徒会	委員会の活性化 生徒会オリエントを成功させよう			生徒総会				挨拶運動					
人権 教育	いじめのないクラスを目指して よりよい人間関係を目指して			助け合いながら互いを認め豊かな人間関係を築く 1年人権学習集中指導 障害者理解				人権作文、標語を完成しよう 人権作文の提出					
教育 環境 整備	緑・花で埋める 新・清掃活動			和む環境作り				掲示物を刷新する				校内美化の推進	

H市立K中学校 道徳教育全体計画 別葉)						
第2学年						
		国語		社会		数学
		月	内容	月	内容	月
A主として自分自身に関すること	1 自主, 自律, 自由と責任	6	メディアと上手に付き合うために			
	2 節度, 節制 志	10	モアイは語る—地球の未来	7	歴史> 第4章 近世の日本	
	3 向上心, 個性の伸長	4	見えないだけ			
	4 希望と勇氣, 克己と強い意志	6	生物が記録する科学—ダイオロギングの可能性			4 5 6 1章 式と計算 2章 連立方程式
	5 真理の探究, 創造	2	科学はあなたの中にある			10 11 12 4章 平行と合同 5章 三角形と四角形
B主として人との関わりに関すること	6 思いやり, 感謝			5	地理> 第2章 世界から見た日本のすがた	
	7 礼儀	4	練習 要点を整理して聞き取る 気持ちを込めて書こう 手紙を書く 言葉 2 敬語			
	8 友情, 信頼	9 10	走れメロス			
	9 相互理解, 寛容	4 9 10	アイスプラネット 練習 相手の考えを踏まえて発言する 話し合っって考えを広げよう パネルディスカッションをする	5	地理> 第2章 世界から見た日本のすがた	
C主として集団や社会との関わりに関すること	10 遵法精神, 公徳心	6	情報コラム 著作権について知る			
	11 公正, 公平, 社会正義					
	12 社会参画, 公共の精神	6 10	魅力的な提案をしよう プレゼンテーションをする 小さな町のラジオ発—臨時災害放送局 「んごらジオ」			
	13 勤労	5	多様な方法で情報を集めよう 職業ガイドを作る			
	14 家族愛, 家庭生活の充実	9 10	盆土産 字のないはがき			
	15 よりよい学校生活, 集団生活の充実					7 9 3章 1次関数